

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 平成26年2月7日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 奥山委員 間野委員 坂本委員 岡田委員
- 4 欠席委員 西川委員
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 26 年 2 月 7 日（金）午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
平成 25 年度横浜教育実践フォーラムについて ほか
- 3 審議案件
教委第 64 号議案 横浜市立盲特別支援学校の体育授業中の事故に係る損害賠償決定に関する意見の申出について
教委第 65 号議案 学校規模適正化について
教委第 66 号議案 教職員の人事について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

今田委員長

おはようございます。ただいまから教育委員会定例会を開会いたします。本日は西川委員が欠席との連絡をいただいております。

それでは、初めに会議録の承認を行います。1月10日の会議録の署名者は、間野委員と坂本委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。なお、前回1月24日の会議録については準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。

岡田教育長

【教育長一般報告】

1 市会報告

- 1/27 こども青少年・教育委員会
- 1/31 本会議（第1日）会期決定

報告いたします。まず、市会の関係ですが、1月27日にこども青少年・教育委員会が開催され、高校生の留学支援についてということで、参考人招致がありました。招致されました方は、公益財団法人AFS日本協会の事務局長である高田祐三様でした。高田氏から、AFSの活動と、それから御自分の高校生のときの留学経験についてのお話がありました。

1月31日は、本会議で会期を決定いたしました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 1/27 平成25年度第2回横浜市・神奈川県警察合同防犯対策会議
- 1/29 平成25年度第2回指定都市教育委員・教育長協議会
- 1/30 第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会

教育委員会関係の主な会議ですけれども、1月27日、平成25年度第2回の横浜市・神奈川県警察合同防犯対策会議が開催されまして、私が出席をいたしました。県警から、神奈川県内及び横浜市内の犯罪情勢と防犯対策について、さらに少年相談・保護センターの活動についての報告があり、意見交換をいたしました。

1月29日は、平成25年度第2回指定都市教育委員・教育長協議会が開催され、今田委員長と私が出席をさせていただきました。こちらは港区で開催されました。テーマは、平成26年度文教予算に対する要望活動等の報告と今後の地方教育行政の在り方についてということで、政令市の方々と意見交換をいたしました。

1月30日、第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会を保土ヶ谷公会堂で開催いたしました。私が御挨拶をさせていただきました。今年のテーマは、いじめが起きにくい風土づくりということで、小中学校1校ずつの実践報告を行いました。

(2) 報告事項

○平成25年度横浜教育実践フォーラムについて

○「自閉症教育の手引き～認めよう、見つめよう、育もうⅡ～」の作成について

報告事項が2件あります。1件目は、平成25年度横浜教育実践フォーラムについて開催結果がまとまりましたので、後ほど所管課から御説明をさせていただきます。

もう一点は、「自閉症教育の手引き～認めよう、見つめよう、育もうⅡ～」ということで、冊子が作成されましたので、後ほど所管課から説明をさせていただきます。

3 その他

もう一件、その他ということで、平成26年度の教育予算につきまして、1月24日に開催された教育委員会で意見申出を行いましたけれども、こちらについて2月5日の水曜日に記者発表いたしました。本日は、資料として予算概要をお手元に配付しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上です。

今田委員長

教育長の報告が終了しましたが、御質問等ございましたら、どうぞ。よろしいですか。

私から言うのもなんですが、この間、西公会堂で、個別支援学級・特別支援学校の合同学芸会があって、31日に参加してきました。もう最後のほうだったのですが、ある中学校では北風と太陽という英語の劇をやっていましたね。それから、タップダンスみたいなものやっていて、活発で面白い発表会だったなと思いました。後ろのほうで見ていようと思ったんですけど、前のほうが顔がよく見えるし、皆さんの激励になるかなということで前のほうで見学してきました。

それでは、別途所管課から説明とありました「平成25年度横浜教育実践フォーラムについて」説明をお願いします。

入内嶋指導部長

おはようございます。指導部長の入内嶋でございます。それでは、1月18日に開催いたしました平成25年度の横浜教育実践フォーラムの実施状況についてまとまりましたので、担当課長から御説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

上條指導企画課長

指導企画課長の上條でございます。平成25年度横浜教育実践フォーラムの実施状況について御報告をさせていただきます。

開催してから若干間が空いてしまっておりますが、参加人数やアンケートなどの取りまとめが終わりましたので、改めて報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

横浜教育実践フォーラムは、平成17年度に横浜教育フェスティバルとして初めて開催し、本市の教育活動の情報発信、教育課程に関する研究・研修、教職員相

互の知識の共有、市民の皆様や地域の方々との連携など、本市の教育力向上に向けた各種事業の普及啓発を目的に毎年開催しているものでございます。平成20年度から、名称を横浜教育実践フォーラムに変更しました。教育文化センターの閉館に伴い、平成24年度から横浜市開港記念会館に会場を移し開催しております。本年度で9回目の開催となります。

本年度につきましては、1月18日土曜日に開催いたしました。参加者数といたしましては、保護者、市民、教員、教育委員会職員など、延べ約860人の参加をいただきました。昨年度に比べ170人ほど多くなっておりますが、これは、昨年度より1分科会増えたこと、学校司書など、市民、教員の関心の高い新たな分科会があったこと、また、開港記念会館での開催が2年目となり、会場の認知度が高まったことなどによるものと思われま。

また、本年度は、他の自治体からも多くの参加をお迎えいたしました。最も遠方は、福岡県筑紫野市より、学校運営協議会担当の小学校の教員と同校の学校運営協議会委員の方の参加がございました。他に、静岡県三島市、県内では厚木市など、小中学校教員などに参加いただき、横須賀市教育委員会からも10人の職員の参加をいただきました。

実施内容でございますが、いくつかの分科会について御報告をさせていただきます。資料の裏面に概要を記載しておりますのでご覧ください。

午前の第1分科会では、昨年10月に本市として初めて配置いたしました学校司書の環境整備などの具体的な活動報告や実践に基づく提案などを行い、学校図書館教育などについて理解を深めました。第4分科会では、昨年1月に開校いたしました若葉台特別支援学校について、肢体不自由児と知的障害の2つの教育部門の連携などを生徒からの発表を交えて報告いたしました。また、子供たちの手づくりのパン工房製品販売も行い、参加者の御好評を得て完売いたしました。

午後の第6分科会、第7分科会は、共通のテーマとして、幼・保・小・中の連携を掲げ、第6分科会では、こども青少年局による幼保小連携推進地区の実践報告やポスターセッションなどを行いました。第7分科会では、上智大学教授で横浜市教育課程研究委員会、総合的な学習の時間専門部会の外部委員の奈須先生を助言者としてお招きし、幼保小連携推進地区の相武山地区と中川西小学校、中川西中学校の取組について報告がありました。その後、第6分科会のポスターセッションに合流し、16時から2つの分科会参加者が講堂に集い、奈須先生から第6、第7分科会を通して指導、講評をいただきました。

他の分科会の概要及び分科会ごとの参加者数につきましては、資料を御参照ください。

なお、午前中は、今田委員長と奥山委員、それから、午後は、今田委員長、西川委員と岡田教育長に御参加いただきました。

最後に、本フォーラムの成果といたしましては、教員だけでなく、地域や市民の皆様と本市の教育実践について共通理解を深めることができたことだと考えております。参加者のアンケートでも、例えば学校評価について具体的な姿を学ぶことができたという地域の方の声や、教員では若葉台特別支援学校の報告を聞き、個別支援学級のキャリア教育に生かしたいという声などが寄せられました。

報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

今田委員長

所管課から説明が終わりましたが、何か御質問等ございましたら、どうぞ。

坂本委員

よろしいですか。単純な質問です。大変に良い会合で、外部からも参加者があったということは大変すばらしいことで、どんどん発展していくと良いと思いま

す。前からあったことなのでしょうけど、ここに文字が出てきたので伺いますが、「子どもの社会的スキル」というのはどういうことなんでしょうか。私不勉強で、ちょっと初めて聞く用語なので、簡単で結構ですから教えてください。人権とどういう関係があるのか分からなかったものですから。それ以外はコラムを読んだからどういうことが行われたか分かったのですが、ここだけちょっと理解不能だったので。5番です。

今田委員長

それでは、生徒指導の齋藤先生、すみません。

齋藤東部学校
教育事務所長

東部学校教育事務所の齋藤でございます。子どもの社会的スキル横浜プログラムについて御説明をさせていただきます。この社会的スキル横浜プログラムは、平成18年に非常に大きないじめ自殺問題があったときに、これを解決するために、子供の社会性を十分育てる必要があるだろうということで作成されたものです。学校教育の中で、例えば相手の気持ちを思いやるとか、自分の気持ちを相手に上手に伝えるとか、そういったスキルをしっかりと育成していく必要があるだろうということで、今、全市的にこのプログラムを活用して、いじめの根絶に向けた取組を、教育課程の中で行うために作成したプログラムでございます。

今田委員長

坂本先生が社会的スキルという言葉の意味について、何か随分ハイカラな感じで、ハイカラという言葉はもうあまり使わないかもしれませんが、そういった意味で、要は、もう少しコミュニケーション能力みたいな、つき合える力ということでしょうか。そういうふうに皆が決めてきたものが、ちょっとハイカラ過ぎるというか、要は聞き慣れないといった感じだと思います。

坂本委員

そうですね。スキルというのがちょっと。でも、聞いたら分かりました。ありがとうございました。

入内嶋指導部
長

当日もグルーピングしていろいろ話し合いをしていただいた中で、例えば、授業の場合には、授業ルールというものもしっかりやっていこうとか、狙いを明確にしようとか、学習の流れをはっきりさせてあげることによって、今委員長が言ってくださったように、コミュニケーションを与えながらやると、しっかり学習ができるだろうとか、そういういろいろな事例がありまして、それを基に皆さんで話し合ってもらって、これを学校で生かそうと、そのような話し合いがありました。

坂本委員

説明を聞けばなるほどと思いましたけど。

今田委員長

どうぞ。

奥山委員

私も午前中だけでしたけれども参加させていただきました。参加者数からいくと、大変増えてきているとは思いますが、保護者から見ると、実はもっと周知していただけると参加したい、という思いが多分あるだろうなと思うんです。この幼保小中の連携ですとか、小中一貫の部分ですとか、保護者の皆さんも関心がないわけではなく、むしろ非常に関心が高いところだと思うんですけど、なかなかこういった場に参加していいのかどうかということもあるかなと思うんです。2月1日、幼稚園、保育園の大会があって横浜市内だけでも3,000人も参加されたということを考えますと、何か会場等も、これだけいい実践内容ですので、

やはり、保護者や教員の皆さん、関係者含めもっともっと参加していてもいいんじゃないかなという、もったいないなという印象がちょっとありましたので、それだけお伝えしたいと思いました。

今田委員長

私のほうから一ついいですか。毎年、スケジュールをもらっているんですけど、メニューはいろいろあって、どれも覗きたい。しかし、全部覗くと中途半端になっちゃうと思って、それで仕方なく、その1か所だけという格好にするんですけども、本当に関心の高いものが同時になっちゃうから、何か工夫をしてもらおうと正直ありがたいかなというのがあります。準備するほうは大変だろうと思いますが、それが1点です。

それから、僕は、学校運営協議会小中一貫推進ブロックのところへ参加して話を聞いていたんですけども、やはり、小学校のほうは随分と運営協議会の取組が進んでいる感じで、中学のほうは、少しどうなのかな、冷めているというところちょっと語弊があるのかも分かりませんが、そこのノウハウみたいなものがうまく伝わってないのか、講座みたいなものがいろいろあるのかも分からないけれども、小学校の関心度と中学の関心度が少し差があるなと感じました。その辺りは、どんなふうに理解をすればいいのかなと素朴に思いましたね。

入内嶋指導部長

委員長が御指摘のように、教員の参加につきましても、やはり中学校の先生より小学校の先生のほうが多いという現状もございます。どうしても、土曜日の開催ですから、部活の問題もあると思います。そういう点で本年度は、小中一貫ですとか、前回お話した学力向上シンポジウムなども、なるべく中学校から提案してもらおうといった仕掛けをもっともっとしていくこととか、時間帯の問題などといった分科会のあり方については、やはりまだまだ工夫の余地があるかなと思います。

ただ、小中一貫協議会につきましては、小中一貫教育推進ということで、お互いやらなくてはいけないということで、とりわけ学校評価などは、小中一貫ブロックの中での総合評価というものも本年度から取り組み出しましたので、少しずつでも、小学校がどんどん発信して中学校も一緒にということを努力しなくてはいけないかなと思っております。

間野委員

大変すばらしい実践フォーラムだと思います。多くの参加者を得て開かれて、事務局の皆さんも大変御苦勞があったことと思います。質問なんですけれども、この10個のテーマというのは、どういうプロセスで決まっていくなんでしょうか。

上條指導企画課長

準備等がありますので、年度の半ばあたりになりますが、フォーラムの日程が決まったところで各関係課、事務局内で発信するものがないかということ照会して、そこから吸い上げてきて精査していく形になります。今回幼保小のことがありますので、事務局だけではなくて、こども青少年局のほうにも照会をして準備を進めてまいりました。また、学校司書の関係もありましたので、図書館についても事務局の中も声をかけて、上がってきたものを精査していく形で決めました。

間野委員

推察すると、そういう意味でいうと属人的というんでしょうか、こういうふうにはやったほうがいいのかという人の声でやっているのかなという気がします。別な言い方をしますと、不易なテーマとその時々トピックみたいな形で、体系的にテーマを定めていくというやり方もあるんじゃないのかなと思います。教育振興

基本計画とかビジョンに沿って、毎年実践フォーラムでやることと、その年々の新しいことについても取り入れる形で、こちらの10個もすばらしいんですけども、そういう進め方もあるかなと思いました。以上です。

入内嶋指導部長

今、間野委員が御指摘のように、参加者の声の中にも両方ございました。学校司書については、新たに10月から配置いたしましたので、この3か月間の中でこんなに実績を上げているとは驚いたとか、時代にマッチして非常に良かったとか、そういうお声をいただきました。一方で、地域の方々からも、先ほどの社会的スキルなどについては毎年発信してやっていくべきではないかというようなお声もいただいておりますので、今お話いただいたことを参考にまた来年度考えたいと思います。

今田委員長

教育長からはよろしいですか。いいですか。それでは、御苦労様でした。次に、「自閉症教育の手引き～認めよう、見つめよう、育もうⅡ～」の作成について、説明をお願いします。

入内嶋指導部長

引き続き、特別支援教育課が所管しております自閉症教育の手引きについて御説明させていただきます。手引きはお手元にございまして、傍聴の皆様には、お配りしておらず申し訳ないのですが、ホームページに掲載いたしますのでよろしく願いいたします。こちらを作成し、学校に配布することになりましたので、担当の課長から詳しく御説明させていただきます。

吉原特別支援教育課長

特別支援教育課長の吉原です。よろしく願いいたします。平成23年度から自閉症教育の推進事業ということで行ってきました。お手元の手引きⅡの前に、手引きⅠということで、このような薄い冊子をつくっております。こちらの内容等につきましては、簡単な文章で書いてあるものでして、今回の手引きⅡにつきましては、より現場で使えるような形ということで考えて作成しました。

平成24年2月にこのパンフレット、手引きⅠを作成して、特別支援教育コーディネーターによる校内研修を実施し、自閉症に関して理解を深めたと報告されております。

この度は、具体的な視点と、必要なツールを掲載したものを98ページにわたり作成しております。中を開いて3ページを見ていただくと目次になっております。目次で大きな柱としては1から10ということで、まず、横浜市の自閉症教育について、また、教育課程について、10の柱で書いてあります。一つひとつ説明させていただくと時間もかかりますので、自閉症の主な取組ということで申し上げます。大きな10の柱の中で特徴的な部分については、5番の「社会参加に向けたキャリア教育」とか、8番の「周囲の子どもへの理解に向けて」ということで、全体的に使えるような形の項目を設定しています。それと、現場のほうから、保護者の方からも多くの質問があるということでしたので、Q&Aということで、今まで質問の多かったものをまとめさせていただいております。

中身のほうなんですけれども、41ページを開いていただけますでしょうか。これは、実際に今年度自閉症の公開授業をやっている特別支援学校の実践の記録を載せてあります。このように具体的に今後使えるような形を何ページか掲載しているところが特徴だと思います。

今後は、この自閉症教育の手引きを使って教職員の研修等に役立てるように今考えているところです。横浜市内の学校全校等に配布を行って、自閉症の発達障

害のある子供たちに一層充実した指導支援に活用していきたいと思っております。他には、図書館、各区の福祉保健センター、児童相談所、関係諸機関にも配布する予定でございます。また、教育委員会のホームページに、2月13日以降にアップロードすることになっております。市民の方にも利用できる、読んで利用できるというふうな冊子になろうかと思っております。以上です。

今田委員長

所管課から説明が終わりました。御質問等ございましたら、どうぞ。

坂本委員

よろしいですか。大変立派な本ができて、教育委員会がこういうものをつくっているのは心強いんですが、ちょっと質問をよろしいでしょうか。事実に関する質問と、考え方に関する質問をしたいと思うのですが、一つは、これは誰を対象にしているかということで、今のお話だと、PTAとか、一般の現場の先生方というお話がありました。教育委員会はそういうつもりで大変丁寧な本を出しているんですけど、これを見ると、私としては学校の先生にとってすごい負担だと思うんです。学校の先生は、教科書をまず基本的に持っていて、いじめの対策、暴力の問題、それから、食育とか給食のアレルギーの問題とか、地域との問題とかいっぱいありますよね。そういうのを抱えてらっしゃる中で、自閉症ということで、これだけの分厚いものを読んで咀嚼しなくてはいけないのか、これを実際の先生方のどれだけの負担を要求しているものかということを考えると、ちょっと怖い気がするんです。ですから、そういう意味では、もちろん読む意欲のある方は皆さんお読みになったらいいし、それから、自閉症で今具体的に困っている方が医学辞書みたいに読まれることはいいんですけど、一般の先生方に読みなさいと言って、配ってしまって、読んでいるはずだという感じにこちら側になるということがどうかなと思います。だから、少なくとも、一つの学校で誰かはこれを完全に咀嚼してくださいと、あとの方は、常識としてこの中の入り口、ぱっと自閉症の子に会ったときの入り口を間違わないようにしてくださいという、そういうちょっと丁寧な指導をしないといけないなと思いました。現にそうしていらっしゃるんでしたら、簡単で結構ですけど、それを教えてください。

それから、2点目は、これは私の不勉強で申し訳ないのですが、いじめの件数とか暴力の件数とかいろいろの御報告が今までありました。それから、外国の方で日本語が分からない人をどのぐらい教師が抱えているかというのも御報告あったんですが、この自閉症というのは、判断が難しいですけれども、教師の人で50人クラスがあるとすると、そういう心構えを持って見なきゃいけない人数というのは、大体どのぐらいあるんでしょうか、その2点を質問します。

入内嶋指導部長

では、1点目は私がお答えします。御指摘のように、いつも教育委員会はこういうものを配ってやりなさいみたいな、そういうことは本当に避けなくてはいけないなと思っております。しかしながら、各学校に1名から2名、特別支援教育コーディネーターがおりまして、児童支援専任教員が兼ねている学校もございすけれど、その方々の研修のときに、こういうときにこんなふうに使っていただくといいですよということを研修で説明をいたしまして、各学校の中で、必要に応じて必要なところを研修に使ったり、配布して使っていただくというのが一番いいかなと思っております。と申しますのは、今一般学級におきまして、御承知のように、後ほどお答えさせていただきますけれど、発達障害のあるお子さんがいる中で、先生たちがどうやってその子に向き合ったらいいのか、その子をどうやって理解してあげたらいいのかと困っている先生たちも多くいらっしゃいます。そのような使い方とともに、負担にならないようにまた考えていきたいと思

います。

吉原特別支援
教育課長

自閉症の数なんですけれども、定義がなかなか難しく、何パーセントとなかなか言うことができないんです。ただ、今年から、自閉症スペクトラムという診断基準がありまして、内容ということになりますと、大変増えていくのではないかなという感じがします。

現場の一般学級の状況を考えてみますと、発達障害があるのではないかというお子さんについて、大体文部科学省の調査では6.5パーセント位ではないかということで調査結果が出ています。ただ、実際に、一般学級にそういうお子さんがどのぐらいいるのかという部分については、その傾向があるお子さん含めるともうちょっとパーセントは増えるのかなと思います。ただ、実際の文部科学省の調査結果は、大体ADHDとか発達障害、自閉症含めて6.5パーセント位ということになってます。

坂本委員

すみません。発達障害と自閉症とはイコールじゃないですよ。発達障害がなくても自閉症というのはありますよね。

吉原特別支援
教育課長

発達障害が大きな広義の定義で、その中の1つが自閉症です。

坂本委員

ああ、そうなんですか。

吉原特別支援
教育課長

いろいろと医学的な診断が変わってきていまして、広汎性発達障害、アスペルガー、自閉症というように今まで3つに分かれていたんですけども、4月から診断基準としてはその3つを合わせて自閉症スペクトラムという定義に変わってきておりますので、ちょっとその辺りの調整、境といいますか、なかなか難しいところですよ。

坂本委員

ただ、先生は、一般の自分のクラス、普通の学級にそういう方たちが数名はいるという前提でクラスを持つということになるわけですね、大雑把に言えば、そういうことですね。

吉原特別支援
教育課長

そうですね。

坂本委員

そうですか。それは大変ですね。

吉原特別支援
教育課長

それにつきましても、項目ごとにチェック欄を設けてあるんですけども、全部やるということではなくて、章ごとに必要なところをやっていただくというようになっております。

坂本委員

一般には辞書的に、一方で、学校の中で誰かはこれを完全にマスターしていないといけませんね。分かりました。

今田委員長

よろしいですか。今、坂本先生や部長が言われたように、この教育委員会がつくるものは、本当にどれもみんな分厚いんですよ。真面目につくる、それから、全部を分かるようにして、その中で必要な部分をうまくチョイスして現場で

使ってもらおうということでしょう。これも指導方法の工夫なんていうところとか、保護者や地域の理解に向けたようなところを、実際にはポイント的に読んでいただくというふうに理解をすればいいんですかね。

入内嶋指導部長

そうですね。

奥山委員

すみません。2年続けて3月末位にフォーラムをなさってましたよね。それは、今年もあるんでしょうか。

吉原特別支援教育課長

自閉症啓発デーということで、今年も3月29日、港南公会堂で行います。

奥山委員

そうですか。是非保護者の皆さんにも宣伝していただければと思います。

今田委員長

それでは、有効に活用できるように頑張ってください。御苦労様でした。御質問等がなければ、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りします。教委第64号議案「横浜市立盲特別学校の体育授業中の事故に係る損害賠償額決定に関する意見の申出について」、教委第65号議案「学校規模適正化について」は、事前に公開することにより、議会の審議等に著しい支障が生じる案件のため、教委第66号議案「教職員の人事について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、教委第64号議案、教委第65号議案及び教委第66号議案は非公開といたします。審議に入る前に事務局に確認ですが、何か報告事項はありますか。

伊東総務課長

1月31日、個人1名から情報公開に関する要望書が提出されました。この要望書については、教育長に委任する事務等に関する規則第4条の規定に基づき、教育長専決にて回答させていただきます。

次回の教育委員会臨時会は2月28日金曜日に開催する予定でございますので、よろしくお願いたします。

今田委員長

皆さん、よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会臨時会は2月28日金曜日に開催する予定です。別途通知しますので、御確認ください。

その他、委員の皆さんから何かございますか。

特に御発言等がなければ、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も御退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<削 除>

今田委員長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

|

[閉会時刻：午前11時30分]